



葉袋（佐川家文書（大島町）645・646・647・663・668）

記録・記憶 ⑨

集めて考えよう

《疑問を解決するために》

小学生、中学生、高校生のみなさん。普段、「あれ？、どういうことなんだろう？」と疑問に思ったりすることはありませんか。そんな時、どうすればその疑問を解決することができるのでしょうか？

その方法は様々で、例えば、図書館に行き、関連する本を探して調べるとたくさんの情報が得られます。また、博物館に行けば標本などの資料を見て疑問点を確かめることができます。その他、現地に足を運んで観察したり、専門家や実際に体験した人に直接聞いてみるのも良いでしょう。

このように色々な方法がある中で、関連する資料や情報をたくさん「集める」ことで疑問の解決に向けてのヒントが得られることもあります。このような時には文書館での調査が有効です。

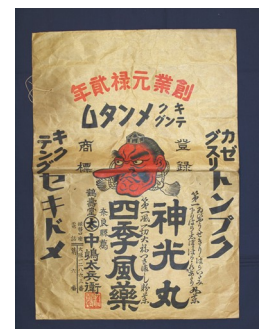
文書館には50万点を超える、文書や記録が保存されています。その中には「古文書」と言われる古い記録もあれば、明治

以来の県庁で作成された公文書、その他、雑誌、新聞、ポスターやチラシなど色鮮やかな刊行物などもあります。きっと、みなさんの関心があるテーマについての資料をたくさん探し出すことができるでしょう。

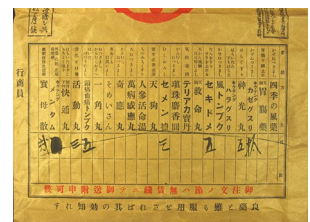
《たくさん集めてみよう》

例えば、スポーツの歴史が気になった場合を考えてみましょう。

新聞や雑誌にはたくさんの広告が出ていますよね。その中にはスポーツに関する広告もあります。「広告」に注目して新聞や雑誌を丁寧にめくり、現在から過去に遡って、できるだけ多くのスポーツに関する記事を拾い集めてみてはどうでしょう。「○○対○○」といった対戦カードのお知らせが載っているかもしれません。あるいは運動用具の広告が出ているかもしれません。現在から平成・昭和・大正・明治・・・と時代を遡ってたくさん拾い集めていくと、一つひとつは簡単な記事でも、たくさん集まるときっと現在との違いやその時代ならではの事柄に気が付くことでしょう。



葉袋（佐川家文書（大島町）648）



置き薬が収納された大きな厚袋には、配置された薬の数量と使用量が記録されています。使用した分の料金を支払いました。

《置き薬について調べるために》

ここでは、置き薬について調べるために、薬袋を集めてみました。置き薬というのは、あらかじめ得意先に薬を置いておき、次回訪れた時に使った分だけの料金を徴収するというものです。これにより、交通の便の良くない地域へも薬が届けられるようになり、庶民の健康が守られました。山口県では伊佐（美祢市）の売薬が有名でした。

薬袋はデザインに工夫が凝らされており、ネーミングも面白く、見るだけでも楽しいのですが、注意して見ると「○○丸」、「○○円（圓）」、「○○散」、「○○湯」などの名前が付けられたものが多いことに気がきます。では、名前で薬袋を分類してみましょう。

【丸】の仲間



超世丸

神仙消毒丸

ピストル丸

【円（圓）】の仲間



熊胆円

セメン円

五龍円

【湯】の仲間



葛根湯

びわやう湯
(枇杷葉湯)

内補順血湯

【散】の仲間



実母散

サントニーネ散

そめいさん
(蘇命散)

【膏】の仲間



日の出かう

亀田すいだし膏薬

フラシン軟膏
ロイヒ膏

現在、市販されている薬にも思い当たるものがありますね。「この名前には何か意味があるのだろうか?」。これは貴重な気づきで、ここからは参考図書での調査です。

これによると名前の違いは薬の製造方法や用法の違いをあらわし、「散」は粉薬である散薬に、散薬では苦いので丸めて飲みやすくしたのが丸薬で、「丸」の名が付けられました。「円（圓）」もこの仲間です。「湯」は煎じての飲む煎じ薬に、「膏」は薬を練って布や紙などに塗りつけて貼る膏薬に付けられた名前です。「軟膏」はチューブやパックなどに入った軟らかい膏薬ということですね。

注意してみると名前の他にも色々気が付きます。「薬の袋の裏に切手みたいなのが貼ってあるけどこれは何だろう」(右下)。「薬袋を入れてある大袋には薬の名前や数量が手書きされている。薬の使用量のようなけど、一番よく使われたのはどんな薬だろう。これにより家庭内で日常起きやすい病気の種類が分かるかもしれないなあ。「山口県文書館の例だけでなく、他の県の薬袋はどうだろう、集めてみたら違いがあるだろうか。「時代の変化により薬も変化しているのかな」。色々な疑問がわいてきます。

さあ、資料をたくさん集めて、それらを注意深く観察し、考えてみましょう。資料を通じた素敵な出会いがきっとあることでしょう。



麝香円(裏)